

**医療介護総合確保促進法に基づく  
平成 27 年度千葉県計画に関する  
事後評価（案）**

**平成 28 年 9 月  
千葉県**

# 1. 事後評価のプロセス

---

## (1) 「事後評価の方法」の実行の有無

事後評価の実施にあたって、都道府県計画に記載した「事後評価の方法」に記載した事項について、記載どおりの手続きを行ったかどうかを記載。

行った

(実施状況)

・平成28年9月12日 千葉県医療介護総合確保促進会議において議論

行わなかった

(行わなかった場合、その理由)

## (2) 審議会等で指摘された主な内容

事後評価の方法に記載した審議会等の意見を聞いた際に指摘された主な内容を記載するとともに、内容の末尾に審議会等名とその開催日時を記載すること。なお、主な内容については、審議会等の議事概要の添付も可とする。

審議会等で指摘された主な内容

## 2. 目標の達成状況

平成27年度千葉県県計画に規定する目標を再掲し、平成27年度終了時における目標の達成状況について記載。

### ■千葉県全体（目標）

#### ① 千葉県の医療と介護の総合的な確保に関する目標

全体目標：安心して質の高い医療・介護サービスが受けられ、最期まで自分らしく  
生きられる千葉県を目指して

この全体目標を達成するため、本県の医療提供体制の現状と課題を踏まえ、6つの柱に沿って事業を展開する。

6つの全体目標については、継続的な把握・点検が必要であることから28年度計画以降もほぼ同一の指標を評価指標として採用している。

このため、平成27年度計画の後年度執行事業（28年度以降）については、次年度以降の計画（28年度以降）において一体的に評価を行うこととする。

#### 目標① 地域包括ケアの推進

今後、急増することが見込まれる医療需要に対応するためには、入院・外来医療だけでなく、在宅医療の仕組みを整備していくとともに、医療や介護などが包括的に確保された地域包括ケアシステムを構築していくことが必要となる。

このため、高齢者だけではなく、誰もが住み慣れた自宅や地域で生活できるための対策を進めることとする。

#### 【定量的な目標値】

- ・ 介護が必要になっても自宅や地域で暮らし続けられると感じる県民の割合  
40.5%（平成27年）→ 増加（平成29年）  
\*計画策定時、平成27年度数値は調査中であったが、今回、調査結果を反映。
- ・ 訪問看護ステーション数  
284箇所（平成26年度）→ 増加（平成27年度）
- ・ 在宅療養支援診療所数  
345箇所（平成27年6月）→ 増加（平成28年6月）
- ・ 在宅療養支援歯科診療所数  
177箇所（平成27年6月）→ 増加（平成28年6月）
- ・ 入院中の患者に対して退院時共同指導を実施している病院数  
37箇所（平成24年9月）→ 増加（平成27年度）

## 目標② 医療機関の役割分担の促進

人口当たりの病床数が全国平均の7割程度しかない本県では、効率的な医療提供体制をつくるために、医療機関の役割分担を進めることは大変重要である。

今後、病床機能報告制度や地域医療ビジョンの策定によって、二次医療圏ごとに医療機能別の将来の必要量などを定めることになるが、地域医療ビジョン策定前であっても、現状でも必要なものとして、救急医療や周産期医療の体制整備や、回復期病床に係る整備などの病床の機能転換・強化等に係る事業は、先行して進めることとする。

\*（注）目標の再掲なのでビジョン策定前の記載となっています。

### 【定量的な目標値】

・自分が住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると感じている県民の割合

58.1%（平成26年）→ 66.0%（平成29年）

・回復期リハビリテーション病棟の病床数（人口10万対）

54床（平成27年4月）→ 増加（平成29年4月）

## 目標③ 医療従事者の確保・定着

急速な高齢化に伴い、医療や介護を必要とする高齢者が急増することにより、医療従事者がますます不足することが想定されており、医療従事者にとって魅力ある環境づくりに努め、今後も安全で質の高い医療・介護を提供できる体制を確保する必要がある。

このため、医療従事者が働きやすい職場をつくり、人材の確保・定着につながる対策を進めることとする。

### 【定量的な目標値】

・医師人数

10,698人（平成24年）→ 増加（平成29年）

・看護職員数

49,548人（平成24年）→ 増加（平成29年）

・初期臨床研修修了者の県内定着率

61.1%（平成26年3月修了者）→ 増加（平成28年3月修了者）

・看護職員の離職率

12.8%（平成25年度）→ 低下（平成27年度）

・看護師等学校養成所卒業生の県内就業率

67.7%（平成27年3月卒業生）→ 増加（平成28年3月卒業生）

・未就業看護職員の再就業者数

131人（平成26年度）→ 150人（平成27年度）

#### 目標④ 地域医療の格差解消

診療科によって医師の偏在が大きく、医師の確保が特に難しい「周産期医療」や「小児（救急）医療」の担い手は全県的に不足している。

このため、誰もがどこでも安心して医療が受けられるように、診療科によって異なる課題に応じた対策を進めることとする。

##### 【定量的な目標値】

- ・医療施設従事医師数（産科・産婦人科）（人口10万対）  
7.1人（平成24年）→増加（平成27年）
- ・医療施設従事医師数（小児科）（人口10万対）  
10.0人（平成24年）→増加（平成27年）
- ・心肺停止状態で見つかった者の1ヵ月後の生存率  
12.7%（平成25年）→増加（平成27年）※現状値に誤りあり修正（25.6%→12.7%）

#### 目標⑤ 介護施設等の整備促進

住み慣れた地域で継続して日常生活を営むことができるよう、地域密着型サービス等の介護サービスの提供体制の整備を進める。また、本県は65歳以上の高齢者人口に対する特別養護老人ホームや介護老人保健施設等の介護施設定員数は全国に比べて大幅に少ない状況であり、地域の実情に応じた施設整備を進める。

##### 【定量的な目標値】

- ・介護が必要になっても自宅や地域で暮らし続けられると感じる県民の割合  
40.5%（平成27年）→増加（平成29年）  
\*計画策定時、平成27年度数値は調査予定であったが、今回、調査結果を反映。
- ・「定期巡回随時対応型訪問介護看護」を実施している市町村数  
15市町村（平成26年）→30市町村（平成29年）
- ・特別養護老人ホーム整備定員数（広域型・地域密着型）  
21,917床（平成26年）→27,880床（平成29年）
- ・広域型特別養護老人ホーム  
20,327床（平成26年）→22,151床（平成27年）
- ・地域密着型特別養護老人ホーム  
1,590床（平成26年）→1,793床（平成27年）
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所  
609人/月分（平成26年）→1,011人/月分（平成27年）  
(目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。)
- ・認知症対応型デイサービスセンター  
13,359回/月分（平成26年）→15,844回/月分（平成27年）
- ・認知症高齢者グループホーム  
5,960人/月分（平成26年）→6,563人/月分（平成27年）
- ・小規模多機能型居宅介護事業所  
1,742人/月分（平成26年）→2,196人/月分（平成27年）
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所  
78人/月分（平成26年）→143人/月分（平成27年）

## 目標⑥ 介護従事者の確保・定着

要介護等高齢者の急増が見込まれる中で、介護従事者は、離職率や入職者数を勘案すると、大幅な不足が想定されている。介護従事者にとって魅力ある働きやすい職場環境づくりに努め、人材の確保・定着につながる対策を進め、今後も質の高い介護を提供できる体制を確保する。

### 【定量的な目標値】

#### ・介護職の就労者数

65,814人（平成24年）→ 76,000人（平成27年）

※計画策定時、目標数値は厚労省発表の暫定値（8.1万人）であったが、確定値（7.6万人）に修正

#### ・介護職員の離職率

16.4%（平成25年）→ 減少（平成27年）

② 計画期間 平成27年4月1日～平成30年3月31日

## <目標の達成状況>

### □千葉県全体（達成状況）

#### 目標① 地域包括ケアの推進

##### 1) 目標の達成状況

- ・ 介護が必要になっても自宅や地域で暮らし続けられると感じる県民の割合  
40.5%（平成27年）
- ・ 訪問看護ステーション数  
284箇所（平成26年度）→ 312箇所（平成27年度）
- ・ 在宅療養支援診療所数  
345箇所（平成27年6月）→ 356箇所（平成28年6月）
- ・ 在宅療養支援歯科診療所数  
177箇所（平成27年6月）→ 216箇所（平成28年6月）
- ・ 入院中の患者に対して退院時共同指導を実施している病院数  
37箇所（平成24年9月）→ 今後調査予定
  
- ・ 在宅医療に関わる医療・福祉関係者による協議会の開催による連携強化や地域リハビリテーション支援体制の整備推進を図った。
- ・ 在宅歯科に必要な医療機器の設備整備（30施設）に助成し、在宅歯科医療の相談窓口を設・運営した。
- ・ 訪問看護ステーションの開設や運営管理などに関する総合相談窓口を設置・運営した。
- ・ 退院支援における問題点が明確化され、退院支援に関するシンポジウム等を通して多職種連携体制を図った。
- ・ 20地区医師会において、在宅医療推進のための基本方針策定に向けた取り組みを実施し、市町村職員や介護関係者、県民を対象とした在宅医療に関する研修等を実施した。

##### 2) 見解

- ・ 訪問診療、訪問歯科診療、訪問看護など、在宅医療の提供体制の整備が一定程度進んだ。

##### 3) 各目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## 目標② 医療機関の役割分担の促進

### 1) 目標の達成状況

- ・自分が住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると感じている県民の割合

58.1% (平成26年) → 60.1% (平成27年)

- ・回復期リハビリテーション病棟の病床数 (人口10万対)

54床 (平成27年4月) → 54.5床 (平成28年4月)

- ・回復期病床の体制整備を実施した。(6箇所)
- ・医療情報連携システムを構築した。(1箇所)
- ・がん診療施設整備を実施した。(3箇所)

### 2) 見解

- ・回復期病床やがん診療施設の体制整備が一定程度進んだ。

### 3) 各目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

### 目標③ 医療従事者の確保・定着

#### 1) 目標の達成状況

- ・ 医師人数  
10,698人(平成24年) → 11,337人(平成26年)
- ・ 看護職員数  
49,548人(平成24年) → 52,636人(平成26年)
- ・ 初期臨床研修修了者の県内定着率  
61.1%(平成26年3月修了者) → 59.4%(平成28年3月修了者)
- ・ 看護職員の離職率  
12.8%(平成25年度) → 11.9%(平成26年度)
- ・ 看護師等学校養成所卒業生の県内就業率  
67.7%(平成27年3月卒業生) → 67.3%(平成28年3月卒業生)
- ・ 未就業看護職員の再就業者数  
131人(平成26年度) → 186人(平成27年度)
  
- ・ 病院内保育所の運営支援や勤務環境改善の相談を実施した。
- ・ 看護師等学校養成所を新たに整備(3箇所)し、県内看護師等学校養成所の1学年定員が増加した。
- ・ 看護師等養成所の卒業生の県内就業率に応じた運営費の支援や看護師養成所の卒業後、県内で看護業務に従事しようとする者に対して修学資金の貸付を実施し、また、看護学生を受け入れる実習病院の設備整備を実施した。
- ・ 未就業看護職者の再就業に向けた講習会等を開催し、再就業者が昨年度よりも増加した。
- ・ 研修医に対する就職説明会や研修医が高度な医療技術を習得できる研修を実施した。
- ・ 女性医師等の就労支援に取り組む医療機関を支援し、女性医師等の就労支援に取り組む医療機関が増加した。
- ・ 薬剤師及び歯科衛生士の復職支援研修を実施した。

#### 2) 見解

- ・ 医療従事者が働きやすい職場環境の整備や人材の確保・定着が一定程度進んだが、医師キャリアアップ・就職支援センター運営事業や看護師等養成所運営支援事業などについては、目標に達しなかった。
- ・ 引き続き次年度計画において、改善策の検討やその他の手法の検討などを図りながら、医師及び看護師確保対策事業を継続し、重点的に実施する。

#### 3) 各目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## 目標④ 地域医療の格差解消

### 1) 目標の達成状況

- ・ 医療施設従事医師数（産科・産婦人科）（人口10万対）  
7.1人（平成24年）→ 6.8人（平成26年）
- ・ 医療施設従事医師数（小児科）（人口10万対）  
10.0人（平成24年）→ 10.3人（平成26年）
- ・ 心肺停止状態で見つかった者の1ヵ月後の生存率  
12.7%（平成25年）→ 14.3%（平成26年）
- ・ 医師不足病院医師派遣促進を実施し、4名の医師派遣を行った。
  
- ・ 産科医確保・育成のために、産科医等の処遇改善等のための分娩手当や研修手当を支給する医療機関に対して、その手当の一部を助成した。
- ・ 新生児医療に従事する医師に対して処遇改善等のための手当を支給する医療機関に対して、その手当の一部の助成を実施するとともに、小児救急医療の拠点となる病院の体制整備を行った。

### 2) 見解

- ・ 周産期医療・小児救急医療については、一定程度整備されたが、産科医等確保・育成事業などについては、目標に達しなかった。
- ・ 引き続き次年度計画において、改善策の検討やその他の手法の検討などを図りながら、医師確保対策事業を継続し、重点的に実施する。

### 3) 各目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## 目標⑤ 介護施設等の整備促進

### 1) 目標の達成状況

- ・介護が必要になっても自宅や地域で暮らし続けられると感じる県民の割合  
40.5% (平成27年)
- ・「定期巡回随時対応型訪問介護看護」を実施している市町村数  
15市町村 (平成26年) → 16市町村 (平成27年)
- ・特別養護老人ホーム整備定員数 (広域型・地域密着型)  
21,917床 (平成26年) → 23,681床 (平成27年)
- ・広域型特別養護老人ホーム  
20,327床 (平成26年) → 21,974床 (平成27年)
- ・地域密着型特別養護老人ホーム  
1,590床 (平成26年) → 1,707床 (平成27年)
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所  
609人/月分 (平成26年) → 469人/月分 (平成27年)  
(目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。)
- ・認知症対応型デイサービスセンター  
13,359回/月分 (平成26年) → 12,485回/月分 (平成27年)
- ・認知症高齢者グループホーム  
5,960人/月分 (平成26年) → 6,200人/月分 (平成27年)
- ・小規模多機能型居宅介護事業所  
1,742人/月分 (平成26年) → 1,910人/月分 (平成27年)
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所  
78人/月分 (平成26年) → 93人/月分 (平成27年)
  
- ・広域型特別養護老人ホームの整備に着手した。(10箇所・860床)
- ・地域密着型特別養護老人ホームの整備に着手した。(2箇所・58床)
- ・小規模多機能型居宅介護事業所の整備に着手した(2箇所)
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所を1箇所整備した
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備に着手した(2箇所)
- ・地域包括支援センターを8箇所整備した。

### 2) 見解

- ・介護施設等の整備については、広域型特別養護老人ホームなど増加傾向であるが、目標に達しない評価指標もあることから、次年度以降においても市町村等と連携しながら介護施設等の整備の推進を図っていく。

### 3) 各目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## 目標⑥ 介護従事者の確保・定着

### 1) 目標の達成状況

- ・ 介護職の就労者数

65,814人(平成24年) → 67,600人(平成25年)

- ・ 介護職員の離職率

16.4%(平成25年) → 20.8%(平成27年)

- ・ 生活支援コーディネーター養成研修を実施し、コーディネーターを養成した。
- ・ 地域における高齢者の社会参加と地域の担い手を養成する事業を実施した。
- ・ 福祉人材の参入促進のために、福祉・介護体験等のセミナーの開催や合同面接会の開催、就職相談等を実施した。
- ・ 介護職員の資質向上のために、喀痰吸引の研修等を実施した。
- ・ 認知症ケアに携わる人材育成のために、サービス事業管理者への研修やかかりつけ医や病院勤務の医療従事者向け研修を実施した。
- ・ 認知症初期集中支援チーム構築の支援を実施した。

### 2) 見解

- ・ 個別事業においては介護従事者の確保・定着が一定程度進んでいるが、介護職の就労者数の増加幅は低く、離職率も目標に達しなかった。
- ・ 引き続き次年度計画において、介護従事者確保・定着に関する事業の改善策の検討やその他の手法の検討などを図りながら、介護従事者確保・定着事業を実施する。

### 3) 各目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## ■千葉区域（目標と計画期間）

### ○千葉区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

#### ① 医療

千葉区域は、平成22年時点で人口10万対の全県平均値と比較すると、病院数・一般診療所数、一般病床数、医師数・看護師数など医療資源全般について上回っており、在宅医療に関する資源が相対的に充実し、医療機関相互の連携も活発な区域である。

一方、人口及び高齢人口が多く、今後の高齢人口の増加及び増加率が大きい区域である。

今後も、周産期医療、高度医療など、地域のニーズに即した診療機能の充実、在宅医療体制の整備促進を図っていく。

#### ② 介護

千葉区域では、平成22年と平成37年を比較すると、人口が横ばいの中、75歳以上人口が2倍以上に急増することが見込まれている。

特別養護老人ホームの整備は、高齢者人口10万人対の全県平均値を下回っている状況であり、増大する介護ニーズに対応するため、計画的な整備が必要である。

また、要介護者の増加による介護従事者の不足が懸念されることから、千葉県福祉人材確保・定着地域推進協議会（千葉地域）を設置・開催し（年1回）、地域の施設、事業所、教育機関、市町村等が連携して、地域の実情に応じた介護従事者の確保・定着を図る。

#### 【定量的な目標値】

##### ・広域型特別養護老人ホーム

2,782床（平成26年）→3,082床（平成27年）

##### ・地域密着型特別養護老人ホーム

58床（平成26年）→87床（平成27年）

##### ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

64人／月分（平成26年）→212人／月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

##### ・認知症対応型デイサービスセンター

1,056回／月分（平成26年）→1,290回／月分（平成27年）

##### ・認知症高齢者グループホーム

1,477人／月分（平成26年）→1,555人／月分（平成27年）

##### ・小規模多機能型居宅介護事業所

166人／月分（平成26年）→183人／月分（平成27年）

##### ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

35人／月分（平成26年）→41人／月分（平成27年）

### ○ 計画期間

平成27年4月1日～平成30年3月31日

## □千葉区域（達成状況）

【継続中（平成27年度の状況）】

### 1) 目標の達成状況

#### ①医療

全県の目標達成状況と同じ。

#### ②介護

- ・広域型特別養護老人ホーム

2, 782 床（平成26年）→3, 082 床（平成27年）

- ・地域密着型特別養護老人ホーム

58床（平成26年）→87 床（平成27年）

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

64人／月分（平成26年）→77人／月分（平成27年）

- ・認知症対応型デイサービスセンター

1, 056回／月分（平成26年）→1, 358回／月分（平成27年）

- ・認知症高齢者グループホーム

1, 477人／月分（平成26年）→1, 512人／月分（平成27年）

- ・小規模多機能型居宅介護事業所

166人／月分（平成26年）→199人／月分（平成27年）

- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

35人／月分（平成26年）→22人／月分（平成27年）

### 2) 見解

全県目標①～⑥についての見解と同じ。

### 3) 目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。  
（平成28年度計画における関連目標の記載ページ；P18）
- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## ■東葛南部区域（目標と計画期間）

### ○東葛南部区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

#### ① 医療

東葛南部区域は、平成22年時点で人口10万対の全県平均値と比較すると、一般診療所数は上回っているものの、病院数は下回っており、一般病床数は大幅に下回っている。医療従事者についても、医師数・看護師数ともに下回っている。

また、この区域は、在宅医療の担い手が在宅療養支援診療所を除き、比較的少ない状況である。一方、人口及び高齢人口が多く、今後の高齢人口の増加及び増加率が大きい区域である。

今後も、在宅医療機関の拡充と連携を促進するとともに、診療所の後方支援機能や救急医療など地域のニーズに即した診療機能の充実を図っていく。

#### ② 介護

東葛南部区域では、平成22年と平成37年を比較すると、人口が微減の中、75歳以上人口が2倍以上に急増することが見込まれている。

特別養護老人ホームの整備は、高齢者人口10万人対の全県平均値を下回っている状況であり、増大する介護ニーズに対応するため、計画的な整備が必要である。

また、要介護者の増加による介護従事者の不足が懸念されることから、千葉県福祉人材確保・定着地域推進協議会（東葛南部地域）を設置・開催し（年1回）、地域の施設、事業所、教育機関、市町村等が連携して、地域の実情に応じた介護従事者の確保・定着を図る。

#### 【定量的な目標値】

##### ・広域型特別養護老人ホーム

4, 187 床（平成26年）→4, 732 床（平成27年）

##### ・地域密着型特別養護老人ホーム

286 床（平成26年）→315 床（平成27年）

##### ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

282 人／月分（平成26年）→412 人／月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

##### ・認知症対応型デイサービスセンター

2, 895 回／月分（平成26年）→3, 565 回／月分（平成27年）

##### ・認知症高齢者グループホーム

1, 209 人／月分（平成26年）→1, 471 人／月分（平成27年）

##### ・小規模多機能型居宅介護事業所

374 人／月分（平成26年）→493 人／月分（平成27年）

##### ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

0 人／月分（平成26年）→25 人／月分（平成27年）

### ○ 計画期間

平成27年4月1日～平成30年3月31日

□東葛南部区域（達成状況）

【継続中（平成27年度の状況）】

1) 目標の達成状況

①医療

全県の目標達成状況と同じ。

②介護

- ・広域型特別養護老人ホーム

4, 187 床（平成26年）→4, 681床（平成27年）

- ・地域密着型特別養護老人ホーム

286床（平成26年）→286床（平成27年）

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

282人／月分（平成26年）→210人／月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・認知症対応型デイサービスセンター

2, 895回／月分（平成26年）→2, 890回／月分（平成27年）

- ・認知症高齢者グループホーム

1, 209人／月分（平成26年）→1, 302人／月分（平成27年）

- ・小規模多機能型居宅介護事業所

374人／月分（平成26年）→403人／月分（平成27年）

- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

0人／月分（平成26年）→4人／月分（平成27年）

2) 見解

全県目標①～⑥についての見解と同じ。

3) 目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

（平成28年度計画における関連目標の記載ページ；P19）

- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## ■東葛北部区域（目標と計画期間）

### ○ 東葛北部区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

#### ① 医療

東葛北部区域は、平成22年時点で人口10万対の全県平均値と比較すると、歯科診療所数は上回っているものの、病院数・一般診療所数ともに下回っており、一般病床数も下回っている。医療従事者については、歯科医師数は上回っているものの、医師数・看護師数ともに下回っている。また、この区域は、在宅医療に関する資源が充実し、医療機関相互の連携も活発である。

一方、人口及び高齢人口が多く、今後の高齢人口の増加及び増加率が大きい区域である。

今後も、区域の中核的病院の整備を図るとともに、救急医療など地域のニーズに即した診療機能の充実、在宅医療体制の整備促進を図っていく。

#### ② 介護

東葛北部区域では、平成22年と平成37年を比較すると、人口が微減の中、75歳以上人口が2倍以上に急増することが見込まれている。特別養護老人ホームの整備は、高齢者人口10万人対の全県平均値を下回っている状況であり、増大する介護ニーズに対応するため、計画的な整備が必要である。

また、要介護者の増加による介護従事者の不足が懸念されることから、千葉県福祉人材確保・定着地域推進協議会（東葛北部地域）を設置・開催し（年1回）、地域の施設、事業所、教育機関、市町村等が連携して、地域の実情に応じた介護従事者の確保・定着を図る。

#### 【定量的な目標値】

- ・広域型特別養護老人ホーム

3, 793床（平成26年）→4, 236床（平成27年）

- ・地域密着型特別養護老人ホーム

343床（平成26年）→430床（平成27年）

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

201人／月分（平成26年）→255人／月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・認知症対応型デイサービスセンター

1, 711回／月分（平成26年）→1, 964回／月分（平成27年）

- ・認知症高齢者グループホーム

1, 132人／月分（平成26年）→1, 214人／月分（平成27年）

- ・小規模多機能型居宅介護事業所

415人／月分（平成26年）→501人／月分（平成27年）

- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

0人／月分（平成26年）→5人／月分（平成27年）

### ○ 計画期間

平成27年4月1日～平成30年3月31日

## □東葛北部区域（達成状況）

【継続中（平成27年度の状況）】

### 1) 目標の達成状況

#### ① 医療

全県の目標達成状況と同じ。

#### ②介護

- ・広域型特別養護老人ホーム

3, 793床（平成26年）→4, 327床（平成27年）

- ・地域密着型特別養護老人ホーム

343床（平成26年）→401床（平成27年）

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

201人/月分（平成26年）→126人/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・認知症対応型デイサービスセンター

1, 711回/月分（平成26年）→1, 591回/月分（平成27年）

- ・認知症高齢者グループホーム

1, 132人/月分（平成26年）→1, 299人/月分（平成27年）

- ・小規模多機能型居宅介護事業所

415人/月分（平成26年）→458人/月分（平成27年）

- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

0人/月分（平成26年）→5人/月分（平成27年）

### 2) 見解

全県目標①～⑥についての見解と同じ。

### 3) 目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

（平成28年度計画における関連目標の記載ページ；P20）

- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## ■印旛区域（目標と計画期間）

### ○ 印旛区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

#### ① 医療

印旛区域は、平成22年時点で人口10万対の全県平均値と比較すると、病院数・一般診療所数ともに下回っており、一般病床数も下回っている。医療従事者については、看護師数は上回っているものの、医師数は下回っている。

なお、この区域は、平成22年から平成37年までの高齢者人口の増加率が49.4%と全区域の中で最も高く、今後、急速に高齢化が進むことから、医療提供体制の充実が急務となっている。また、在宅医療の担い手が在宅療養支援歯科診療所を除き、比較的少ない状況である。

今後も、在宅医療機関の拡充と連携を促進するとともに、救急医療など地域のニーズに即した診療機能の充実を図っていく。

#### ② 介護

印旛区域では、平成22年と平成37年を比較すると、人口が微減の中、75歳以上人口が2倍以上に急増することが見込まれている。

特別養護老人ホームの整備は、高齢者人口10万人対の全県平均値を上回っているものの、増大する介護ニーズに対応するため、計画的な整備が必要である。

また、要介護者の増加による介護従事者の不足が懸念されることから、千葉県福祉人材確保・定着地域推進協議会（印旛地域）を設置・開催し（年1回）、地域の施設、事業所、教育機関、市町村等が連携して、地域の実情に応じた介護従事者の確保・定着を図る。

#### 【定量的な目標値】

- ・広域型特別養護老人ホーム

2,678床（平成26年）→2,914床（平成27年）

- ・地域密着型特別養護老人ホーム

200床（平成26年）→200床（平成27年）

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

30人/月分（平成26年）→70人/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・認知症対応型デイサービスセンター

2,681回/月分（平成26年）→3,267回/月分（平成27年）

- ・認知症高齢者グループホーム

589人/月分（平成26年）→603人/月分（平成27年）

- ・小規模多機能型居宅介護事業所

227人/月分（平成26年）→283人/月分（平成27年）

### ○ 計画期間

平成27年4月1日～平成30年3月31日

## □印旛区域（達成状況）

【継続中（平成27年度の状況）】

### 1) 目標の達成状況

#### ① 医療

全県の目標達成状況と同じ。

#### ② 介護

- ・ 広域型特別養護老人ホーム

2, 678床（平成26年）→2, 758床（平成27年）

- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム

200床（平成26年）→200床（平成27年）

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

30人/月分（平成26年）→32人/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・ 認知症対応型デイサービスセンター

2, 681回/月分（平成26年）→1, 609回/月分（平成27年）

- ・ 認知症高齢者グループホーム

589人/月分（平成26年）→570人/月分（平成27年）

- ・ 小規模多機能型居宅介護事業所

227人/月分（平成26年）→211人/月分（平成27年）

### 2) 見解

全県目標①～⑥についての見解と同じ。

### 3) 目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

（平成28年度計画における関連目標の記載ページ；P21）

- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## ■香取海匝区域（目標と計画期間）

### ○ 香取海匝区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

#### ① 医療

香取海匝区域は、平成22年時点で人口10万対の全県平均値と比較すると、一般診療所数は下回っているものの、病院数では上回っており、病床数も上回っている。医療従事者については、歯科医師数は下回っているものの、医師数・看護師数は上回っている。

また、この区域は、在宅療養支援診療所と訪問看護ステーションの数は全県平均とほぼ同水準であるが、医療機関相互の連携が十分とは言えない状況である。

今後も、在宅医療機関の更なる連携を促進するとともに、診療所の後方支援機能や救急医療など地域のニーズに即した診療機能の充実を図っていく。

#### ② 介護

香取海匝区域では、平成22年と平成37年を比較すると、人口が1割以上減少する中、75歳以上人口は約1.2倍に増加すると見込まれている。

特別養護老人ホームの整備は、高齢者人口10万人対の全県平均値を上回っており、入所待機者数の増加も鈍化傾向にある。また、費用面で多床室を望む人が多いなど、地域により状況が異なることから、地域の実情に応じた施設整備が必要である。

要介護者の増加による介護従事者の不足が懸念されることから、千葉県福祉人材確保・定着地域推進協議会（香取・海匝地域）を設置・開催し（年1回）、地域の施設、事業所、教育機関、市町村等が連携して、地域の実情に応じた介護従事者の確保・定着を図る。

#### 【定量的な目標値】

##### ・広域型特別養護老人ホーム

1,430床（平成26年）→1,443床（平成27年）

##### ・地域密着型特別養護老人ホーム

191床（平成26年）→191床（平成27年）

##### ・認知症対応型デイサービスセンター

1,072回/月分（平成26年）→1,216回/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

##### ・認知症高齢者グループホーム

368人/月分（平成26年）→390人/月分（平成27年）

##### ・小規模多機能型居宅介護事業所

182人/月分（平成26年）→195人/月分（平成27年）

### ○ 計画期間

平成27年4月1日～平成30年3月31日

## □香取海匠区域（達成状況）

【継続中（平成27年度の状況）】

### 1) 目標の達成状況

#### ① 医療

全県の目標達成状況と同じ。

#### ②介護

- ・広域型特別養護老人ホーム

1, 430床（平成26年）→1, 460床（平成27年）

- ・地域密着型特別養護老人ホーム

191床（平成26年）→163床（平成27年）

- ・認知症対応型デイサービスセンター

1, 072回／月分（平成26年）→1, 004回／月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・認知症高齢者グループホーム

368人／月分（平成26年）→360人／月分（平成27年）

- ・小規模多機能型居宅介護事業所

182人／月分（平成26年）→199人／月分（平成27年）

### 2) 見解

全県目標①～⑥についての見解と同じ。

### 3) 目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。  
（平成28年度計画における関連目標の記載ページ；P22）
- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## ■山武長生夷隅区域（目標と計画期間）

### ○山武長生夷隅区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

#### ① 医療

山武長生夷隅区域は、平成22年時点で人口10万対の全県平均値と比較すると、病院数では上回っているものの、一般診療所数は下回っており、一般病床数は大幅に下回っている。医療従事者については、医師数・看護師数が全県平均値を大幅に下回っており、人口10万対の産婦人科及び産科に従事する医師数は、県内で最も少ない状況である。

また、この区域は、在宅医療の担い手が少ない区域である。

一方、地域医療の中核を担う医療機関が平成26年4月に開院し、三次救急医療体制が新たに整備されたところである。

今後も、医師・看護師の確保対策が急務であるほか、地域の医療・介護資源の状況を踏まえて在宅医療の体制整備を進めるとともに、救急医療など地域のニーズに即した診療機能の充実を図っていく。

#### ②介護

山武長生夷隅区域では、平成22年と平成37年を比較すると、人口が1割以上減少する中、75歳以上人口は約1.4倍に増加すると見込まれている。特別養護老人ホームの整備は、高齢者人口10万人対の全県平均値を上回っているものの、増大する介護ニーズに対応するため、計画的な整備が必要である。

また、要介護者の増加による介護従事者の不足が懸念されることから、千葉県福祉人材確保・定着地域推進協議会（山武・長生・夷隅地域）を設置・開催し（年1回）、地域の施設、事業所、教育機関、市町村等が連携して、地域の実情に応じた介護従事者の確保・定着を図る。

#### 【定量的な目標値】

- ・広域型特別養護老人ホーム

2,316床（平成26年）→2,472床（平成27年）

- ・地域密着型特別養護老人ホーム

155床（平成26年）→155床（平成27年）

- ・認知症対応型デイサービスセンター

1,322回／月分（平成26年）→1,719回／月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・認知症高齢者グループホーム

582人／月分（平成26年）→633人／月分（平成27年）

- ・小規模多機能型居宅介護事業所

151人／月分（平成26年）→211人／月分（平成27年）

- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

20人／月分（平成26年）→22人／月分（平成27年）

### ○計画期間

平成27年4月1日～平成30年3月31日

## □山武長生夷隅区域（達成状況）

【継続中（平成27年度の状況）】

### 1) 目標の達成状況

#### ① 医療

全県の目標達成状況と同じ。

#### ②介護

- ・ 広域型特別養護老人ホーム

2, 316床（平成26年）→2, 452床（平成27年）

- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム

155床（平成26年）→155床（平成27年）

- ・ 認知症対応型デイサービスセンター

1, 322回/月分（平成26年）→1, 503回/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・ 認知症高齢者グループホーム

582人/月分（平成26年）→461人/月分（平成27年）

- ・ 小規模多機能型居宅介護事業所

151人/月分（平成26年）→185人/月分（平成27年）

- ・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所

20人/月分（平成26年）→27人/月分（平成27年）

### 2) 見解

全県目標①～⑥についての見解と同じ。

### 3) 目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

（平成28年度計画における関連目標の記載ページ；P23）

- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## ■安房区域（目標と計画期間）

### ○ 安房区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

#### ① 医療

安房区域は、平成22年時点で人口10万対の全県平均値と比較すると、病院数・一般診療所数、一般病床数、医師数・看護師数など医療資源全般について大幅に上回っており、在宅医療に関する資源が県内で最も充実し、医療機関相互の連携も活発な区域である。

ただし、高齢化率（総人口に対する65歳以上人口の割合）が33.9%と全区域の中で最も高い状況であること、また、地域の拠点病院である1医療機関に勤務する医師・看護師を除くと、人口10万対医師数・看護師数は全県平均値を大きく下回る状況であることに留意する必要がある。

今後も、救急医療など地域のニーズに即した診療機能や後方支援機能の充実を図っていく。

#### ② 介護

安房区域では、平成22年と平成37年を比較すると、人口が16.2%減少する中、75歳以上人口は約1.2倍に増加すると見込まれている。特別養護老人ホームの整備は、高齢者人口10万人対の全県平均値を上回っており、入所待機者数の増加も鈍化傾向にある。また、費用面で多床室を望む人が多いなど地域により状況が異なることから、地域の実情に応じた施設整備が必要である。

要介護者の増加による介護従事者の不足が懸念されることから、千葉県福祉人材確保・定着地域推進協議会（安房地域）を設置・開催し（年1回）、地域の施設、事業所、教育機関、市町村等が連携して、地域の実情に応じた介護従事者の確保・定着を図る。

#### 【定量的な目標値】

##### ・広域型特別養護老人ホーム

839床（平成26年）→915床（平成27年）

##### ・地域密着型特別養護老人ホーム

49床（平成26年）→49床（平成27年）

##### ・認知症対応型デイサービスセンター

2,187回/月分（平成26年）→2,146回/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

##### ・認知症高齢者グループホーム

235人/月分（平成26年）→249人/月分（平成27年）

##### ・小規模多機能型居宅介護事業所

95人/月分（平成26年）→137人/月分（平成27年）

##### ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

23人/月分（平成26年）→21人/月分（平成27年）

### ○ 計画期間

平成27年4月1日～平成30年3月31日

## □安房区域（達成状況）

【継続中（平成27年度の状況）】

### 1) 目標の達成状況

#### ① 医療

全県の目標達成状況と同じ。

#### ②介護

- ・広域型特別養護老人ホーム

839床（平成26年）→913床（平成27年）

- ・地域密着型特別養護老人ホーム

49床（平成26年）→49床（平成27年）

- ・認知症対応型デイサービスセンター

2, 187回/月分（平成26年）→2, 154回/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・認知症高齢者グループホーム

235人/月分（平成26年）→275人/月分（平成27年）

- ・小規模多機能型居宅介護事業所

95人/月分（平成26年）→93人/月分（平成27年）

- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

23人/月分（平成26年）→17人/月分（平成27年）

### 2) 見解

全県目標①～⑥についての見解と同じ。

### 3) 目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

（平成28年度計画における関連目標の記載ページ；P24）

- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## ■君津区域（目標と計画期間）

### ○ 君津区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

#### ① 医療

君津区域は、平成22年時点で人口10万対の全県平均値と比較すると、病院数は上回っているものの、一般診療所数は下回っており、一般病床数は大幅に下回っている。

医療従事者については、医師数・看護師数ともに全県平均値を下回っている。

また、この区域は在宅医療の担い手が特に少ない状況である。

今後も、在宅医療機関の拡充と連携を促進し、地域の医療・介護資源の状況を踏まえて在宅医療の体制整備を進めるとともに、診療所の後方支援機能や救急医療など地域のニーズに即した診療機能の充実を図っていく。

#### ② 介護

君津区域では、平成22年と平成37年を比較すると、人口が8.6%減少する中、75歳以上人口は約1.7倍に急増すると見込まれている。

特別養護老人ホームの整備は、高齢者人口10万人対の全県平均値を上回っているものの、増大する介護ニーズに対応するため、計画的な整備が必要である。

また、要介護者の増加による介護従事者の不足が懸念されることから、千葉県福祉人材確保・定着地域推進協議会（君津地域）を設置・開催し（年1回）、地域の施設、事業所、教育機関、市町村等が連携して、地域の実情に応じた介護従事者の確保・定着を図る。

#### 【定量的な目標値】

##### ・広域型特別養護老人ホーム

1,474床（平成26年）→1,529床（平成27年）

##### ・地域密着型特別養護老人ホーム

250床（平成26年）→308床（平成27年）

##### ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

32人/月分（平成26年）→50人/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

##### ・認知症対応型デイサービスセンター

435回/月分（平成26年）→571回/月分（平成27年）

##### ・認知症高齢者グループホーム

194人/月分（平成26年）→227人/月分（平成27年）

##### ・小規模多機能型居宅介護事業所

44人/月分（平成26年）→89人/月分（平成27年）

##### ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

0人/月分→29人/月分

### ○ 計画期間

平成27年4月1日～平成30年3月31日

## □君津区域（達成状況）

【継続中（平成27年度の状況）】

### 1) 目標の達成状況

#### ① 医療

全県の目標達成状況と同じ。

#### ②介護

- ・広域型特別養護老人ホーム

1, 474床（平成26年）→1, 474床（平成27年）

- ・地域密着型特別養護老人ホーム

250床（平成26年）→308床（平成27年）

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

32人/月分（平成26年）→19人/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・認知症対応型デイサービスセンター

435回/月分（平成26年）→394回/月分（平成27年）

- ・認知症高齢者グループホーム

194人/月分（平成26年）→203人/月分（平成27年）

- ・小規模多機能型居宅介護事業所

44人/月分（平成26年）→58人/月分（平成27年）

- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所

0人/月分→18人/月分

### 2) 見解

全県目標①～⑥についての見解と同じ。

### 3) 目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

（平成28年度計画における関連目標の記載ページ；P25）

- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

## ■市原区域（目標と計画期間）

### ○ 市原区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

#### ① 医療

市原区域は、平成22年時点で人口10万対の全県平均値と比較すると、病院数・一般診療所数ともに下回っているものの、一般病床数はわずかに上回っている。

医療従事者については、医師数・看護師数ともに全県平均値を上回っている。

また、この区域は、在宅療養支援診療所と訪問看護ステーションの数は全県平均とほぼ同水準であるが、医療機関相互の連携が十分とは言えない状況である。

このほか、三次救急医療を確保するための救命救急センターが整備されていない状況である。

今後も、在宅医療機関の更なる連携を促進するとともに、救急医療など地域のニーズに即した診療機能の充実を図っていく。

#### ② 介護

市原区域では、平成22年と平成37年を比較すると、人口が6.6%減少する中、75歳以上人口は約2倍に急増すると見込まれている。特別養護老人ホームの整備は、高齢者人口10万人対の全県平均値を下回っている状況であり、増大する介護ニーズに対応するため、計画的な整備が必要である。

また、要介護者の増加による介護従事者の不足が懸念されることから、千葉県福祉人材確保・定着地域推進協議会（市原地域）を設置・開催し（年1回）、地域の施設、事業所、教育機関、市町村等が連携して、地域の実情に応じた介護従事者の確保・定着を図る。

#### 【定量的な目標値】

- ・ 広域型特別養護老人ホーム

828床（平成26年）→828床（平成27年）

- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム

58床（平成26年）→58床（平成27年）

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

0人/月分（平成26年）→12人/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・ 認知症対応型デイサービスセンター

0回/月分（平成26年）→106回/月分（平成27年）

- ・ 認知症高齢者グループホーム

174人/月分（平成26年）→221人/月分（平成27年）

- ・ 小規模多機能型居宅介護事業所

88人/月分（平成26年）→104人/月分（平成27年）

### ○計画期間

平成27年4月1日～平成30年3月31日

## □市原区域（達成状況）

【継続中（平成27年度の状況）】

### 1) 目標の達成状況

#### ① 医療

全県の目標達成状況と同じ。

#### ②介護

- ・広域型特別養護老人ホーム

828床（平成26年）→828床（平成27年）

- ・地域密着型特別養護老人ホーム

58床（平成26年）→58床（平成27年）

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

0人/月分（平成26年）→3人/月分（平成27年）

（目標値のサービスが提供されるよう施設の整備を行う。以下同じ。）

- ・認知症対応型デイサービスセンター

0回/月分（平成26年）→0回/月分（平成27年）

- ・認知症高齢者グループホーム

174人/月分（平成26年）→218人/月分（平成27年）

- ・小規模多機能型居宅介護事業所

88人/月分（平成26年）→104人/月分（平成27年）

### 2) 見解

全県目標①～⑥についての見解と同じ。

### 3) 目標の継続状況

- 平成28年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

（平成28年度計画における関連目標の記載ページ；P26）

- 平成28年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。